

## 清酒用原料米の安定取引に向けた情報交換会概要（中国四国ブロック） 開催日：平成 25 年 9 月 25 日（水）

### 概 要：

#### （清酒メーカー、需要者団体からの主な意見）

- ・ 広島県においては、原料米の確保について、生産者側と一体的に取り組んでいる。
- ・ 県内においても全国と同様、清酒の出荷量は横ばいとなっているが、普通酒については下げ止まっている状況。
- ・ メーカーでは、酒造好適米が不足すると、製品の原料構成や表示を変えなければならなくなるので、必要量の生産をお願いしたい。
- ・ 加工用米については、県内の生産量だけでは県内需要を満たせないので、他県の米を供給してもらわなくてはならないが、生産者側に必要量確保が必須であることを理解してほしい。
- ・ 岡山県では、原料米については、県酒造組合と全農県本部との間で話し合いながら、問題なく必要量は確保できている。加工用米は、品種も特定され、安定供給されている。
- ・ 酒造好適米については、これまでメーカーとしても、雄町の復活、生産拡大に向け努力してきた。今は生産地域が拡大し取引が安定したが、栽培に手間をかけなくなってきたいるのか品質が落ちてきているように感じる。
- ・ 生産農家は、これまで、生産した米がどのように使われ、どのような酒になっているのかあまり知らなかつたが、雄町サミットを開催するなどにより、理解されるようになり、生産意欲の向上につながっている。
- ・ 愛媛県は消費県であり、自県では原料米が確保できないため、他県から米を供給してもらっている。米がなければ酒が造れないので、生産者側と話し合いを進めながら数量確保を優先に必要量を確保してきたが、価格高騰によりコスト面で厳しい状況。
- ・ 昨年、加工用米が不足した際、岡山県から供給してもらった。
- ・ 酒造好適米については、供給量が不足すると、小さなメーカーほど調整が厳しく、原料構成を変えなくてはならなくなる。
- ・ 地元産の酒造好適米で醸造を行うために、県と農林水産研究所の協力のもと新品種「しづく媛」を開発し、平成 21 年から統一銘柄で清酒を製造している。

## (生産者、生産者団体からの主な意見)

- ・ 酒造好適米の生産については、県内 4 力所の酒米生産団地において、生産者部会を組織し、計画生産と栽培技術の向上に向け取り組んでいる。
- ・ 生産者と清酒メーカーとの相互理解を図るため、酒米産地視察会や酒米懇談会等を開催して情報交換を図っている。
- ・ 清酒メーカーからの需要に応えるため、産地 4 JAにおいて、酒造好適米・かけ米・加工用米の生産に取り組む必要。
- ・ 加工用米は備蓄米とのプール計算を実施するとともに、県内全域で産地資金を措置（12,000 円/10 a）。
- ・ かけ米の安定供給に向け、中生新千本を 26 年産から契約栽培で取り組む。
- ・ 酒造好適米については、メーカーから 12 月に銘柄別希望数量を提出いただき、契約栽培を実施しているが、追加要望は微修正の範囲ではあるが 2 月まで受け付けている。
- ・ 生産者側としては、酒造好適米の栽培に適した面積が少なく、作付け拡大は現実的には厳しい。また、主食用米の価格が高い状況下では、酒造好適米を作ってくれない。
- ・ 加工用米については、一部収量性の高い「みつひかり」を導入しているが、種子更新が毎年必要であり、コストがかかる。
- ・ できるだけ安い米というニーズだが、メーカーには安定した価格で引き取っていただき、製品を高く売っていただきたい。
- ・ 原料米の取扱数量について、平成 20 年産米と 24 年産米で比較すると、酒造好適米は、清酒の需要減少に比例して減少する程度となっているが、全農が集荷する加工用米は地域流通拡大により大きく減少しており、清酒業界への安定供給においても全農取扱シェアの拡大が課題。
- ・ 昨年は、希望数量に見合った供給が行えず、メーカーにはご迷惑をおかけしたが、25 年産米の供給に当たっては、酒造好適米・加工用米とともに昨年よりも希望に沿った供給ができる見込み。ただし、一部、酒造好適米については、特定の銘柄について需給のミスマッチが発生しており、加工用米については、独自調達可能な大手メーカーとの取引においてミスマッチが生じている。こうしたミスマッチを解消し、希望に応じた生産の拡大を図るには、どうしても一定の時間がかかるため、需要者の皆さんには生産・集荷等の状況について情報提供を行いながら、需要者との WIN-WIN の関係構築を図っていきたいと考えているところ。
- ・ また、醸造用一般米の供給数量も大きく減少しており、減少に歯止めをかける必要。

- 既存使用分からの置き換わりとならないよう、増産分のチェックを万全に行っていただきたい。
- ネガでの作付けに当たっては、地域の実態に合った単収で面積を算定できるようにしていただきたい。

-以 上-